

奈良民商ニュース

発行 奈良民主商工会
奈良市大森西町13-16
電話0742-33-7266
FAX 0742-34-5826
HP naramsyo.jp

4～6月期 史上最高の16人が入会！

コロナ対策が民商の信頼高める

持続化給付金

165件を申請支援

奈良民商はこの間、新型コロナウイルス対策の持続化給付金の申請を165件 個人156人、法人9人）支援し、これまでに127件 個人123人、法人4人、1億2990万円が実行されています。
6月13日現在）

申告・申請は民商へ 会員の紹介で入会者続々

こうした活動が民商の信頼を高め、4～6月期、奈良民商史上最高の16人の新会員を迎えています。6月16日現在）入会者の特徴は会員の紹介が多いことです。

南支部のNさんⅡお好み焼きⅡは、民商なら確定申告と持続化給付金の申請ができる」と、コロナ禍で困っている知り合いを次々と紹介。建設業のYさん（男性）、歌手・カラオケ講師のHさん（女性）、カラオケ・スナックを営むKさん（女性）の、3人を紹介しました。

引き続き、仲間増やしは人助け」を合言葉に、仲間を増やしましょう。

記帳会

【日 時】
7月15日（水）
13:30
【持ち物】
領収書・帳簿
筆記用具・電卓



絵手紙教室

絵手紙教室は、新型コロナウイルスの感染予防と、みなさんの健康を守るためにしばらくお休みします。



1枚のチラシをきっかけに入会し、民商と出会えた喜びと今後の期待を熱く語る松田さん。

「民商は道しるべを示してくれるところ」

6月5日、大安寺地域で新聞販売店を営む松田浩一さんは奈良民商に入会しました。松田さんは、今まで民商を全く知らなかった。もっと早く知っていたかった」と、中小業者の営業と暮らしを応援する民商との出会いを喜んでいきます。

妻の藤子さん、10人の従業員らとともに、午前0時から午前5時と、再び午前10時から午後6時まで働く松田さん。生活は一向によくならない」と悩んでいました。民商との出会いは、藤子さんが民商に新聞代の集金に訪れたとき、チラシを持ち帰ったことでした。

チラシを大切に保管していた松田さんは、6月5日、民商を訪問。上杉晴美事務局員から、申告所得で国民健康保険料が決まることや税金の計算方法、コロナ対策融資など、詳しく聞くことができました。松田さんは「民商で道が開けた」と感じた、と振り返ります。

今後、商売の幅を広げていくと考える松田さんは、異業種の人たちが集まる民商で、いろんな角度から情報を収集し、自分の視野が広がる」と期待しています。

私たち商売人はお店をつぶさないために必死です。民商は私たちに「道しるべを示してくれるところ」だと確信しました。これでやっと一歩、前に進める」と、松田さんは安心した表情で話しています。

雑貨店 細川たみ子さん

細川たみ子さん（済美支部）は奈良町、南城戸町の江戸時代から続く町屋で、お寺などにろうそくや線香などを納める雑貨店を営んでいます。

2000年続くろうそく屋さん

細川さんは 60 年前、庭に植えた南高梅が大きな木になって、毎年、柔らかくて大きな実がなるのよ。風通しがいいので虫がつかない。あげたらみんな喜んでくれるの」と話します。

細川さんは愛知県出身の84歳。夫、政之介さんと二十歳で結婚。以来60年以上ここで暮らしています。3年前に政之介さんが亡くなり、今は一人で雑貨店「寺川屋」の営業を続けています。ろうそくや線香を興福寺や新



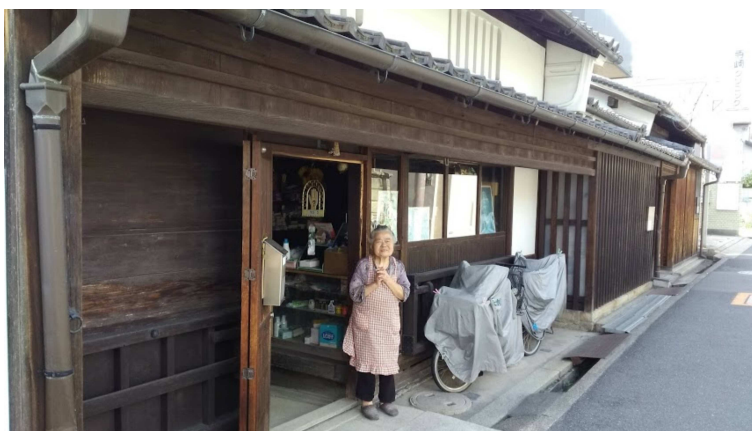
「今年もたくさんとれました」と、坂田一仁事務局員に梅を手渡してくれた細川さん。自らも梅干しや梅ジュースを作るとのこと。この笑顔にだれもが癒されます。

薬師寺などのお寺に販売しています。細川さんは、ろうそくや線香を使うところが少なくなつたので、昔と比べると売上は減つた」と話しています。

お店兼住宅は奈良町にある町家建築の一つで、細川家住宅」として、奈良県の有形文化財に指定されています。江戸時代の文化・文政年間（1804～30年）に記された祈祷札（きとうだ）があることから、19世紀初期の建築と考えられ、奈良



玄関横の建具について、外側へ倒すと椅子のように腰かけられるようになる、と説明する細川さん。「ぱったり床机」というそうです。



江戸時代の商家の佇まいを残す貴重な存在です。

市内有数の古い町家として、江戸時代から1960年頃まで長らく、ろうそくの製造・販売を営んできたという歴史を持っています。

細川さんは 古いだけでねえ。

余計なお金がかかるのよ」と秋には防災の点検があり、修繕は宮大工さんをお願いしている」など、建物を後世に遺す苦勞を語ります。

夫の父、六兵衛さんの代から奈良民商の会員。入会して50年以上になります。夫、政之介さんは済美支部役員や民商の理事として奮闘。たみ子さんも毎週4部、班の仲間に商工新聞を配達しています。

細川さんが店先に立つと、道行く人々は「こんにちは」「暑いですね」「お元気ですか」と次々と声を掛けます。一人ひとりに愛想よく笑顔で応える細川さんは町の人気者。秋の写真撮影を撮らせて、と頼む人や、悩みを打ち明ける人もあるのよ。安心感があるのかしら」と話しています。